



東北大学

1部 / 「無形」文化財の被災とその復興：調査事業の報告

- 趣旨説明と調査事業報告 高倉浩樹（東北大学）
- 報告
 - 人類学の立場から 岡田浩樹（神戸大学）
 - 宗教学の立場から 木村敏明（東北大学）
 - 民俗学の立場から 菊地 暁（京都大学）
 - 学生の立場から 沼田 愛（東北学院大学）
 - 行政の立場から 小谷竜介（宮城県）

2部 / 無形民俗文化財と地域社会の復興をめぐるパネル討論

- 司会 政岡伸洋（東北学院大学）
- コメント 菊池健策（文化庁）、齋藤三郎（宮城県山元町教育委員会）、沼倉雅毅（牡鹿・白山神社笛担当）



東日本大震災は沿岸部に津波被害をもたらしたが、それは各地で傳承されてきた無形民俗文化財にも及ぶものだった。このシンポジウムでは、祭りや神楽、年中行事、生業等に震災がどう影響したのか、そしてその復興の現在について調査報告を行うものである。さらにモノのような形を持たない「無形」の民俗文化が被災するということは何を意味するのか、地域社会の復興にとって果たしうる役割とは何か、研究者・行政・地域社会の関係者を交えて検討し、いかなる連携が可能なのかを考えたい。

東北大学東北アジア研究センターシンポジウム

民俗芸能と 祭礼からみた地域復興

東日本大震災にともなう被災した無形の民俗文化財調査から

宮城県地域文化遺産復興プロジェクト（文化庁補助事業「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」）

入場無料
参加自由

2013年 2月 23日(土)
13:00 ~ 18:00

主催：東北大学東北アジア研究センター <http://www.cneas.tohoku.ac.jp/> 会場 東北大学片平さくらホール 2階
仙台市青葉区片平2-1-1

共催：東北学院大学、東北大学大学院文学研究科
後援：読売新聞社、河北新報社
お問い合わせ 東北大学東北アジア研究センター
Tel 022-795-6009

募集

仙台市外より参加する大学院生等を対象に旅費の一部を補助します。応募要領は東北アジア研究センターホームページに掲載しております。
助成窓口：inazawa@cneas.tohoku.ac.jp



高倉 浩樹（たかくら・ひろき）
 <東北大学東北アジア研究センター准教授 社会人類学、シベリア民族誌>
 気候変動と連動して発生する災害がシベリア先住民社会にもたらす影響を文理連携で調査研究しています。東日本大震災以降は、聞き書き調査など質的方法による記録化の公共的な意義を、人類学の方法論や応用的側面を考えています。

岡田 浩樹（おかだ・ひろき）
 <神戸大学国際文化学研究所教授 文化人類学、東アジア研究>
 東アジア周辺諸社会（日本・韓国・ベトナム）の近代化およびグローバル化にともなう文化・社会の再編成の問題について研究を行っています。最近は宇宙開発に伴い、科学技術がもたらす社会・文化の課題「宇宙人類学」にも取り組んでいます。

木村 敏明（きむら・としあき）
 <東北大学大学院文学研究科 准教授 宗教学>
 インドネシア・スマトラをフィールドにしています。2009年からスマトラ沖地震の経験がインドネシアにおける社会と宗教のありかたにどのような変化をもたらしたかを研究してきました。

菊地 暁（きくち・あきら）
 <京都大学人文科学研究所助教 民俗学>
 普通の人々の普通の暮らし、そこから生み出されるコトバ・モノ・ワザのはたらきに関心を寄せると共に、そうしたコトバ・モノ・ワザが研究者や行政やメディアに取り上げられる際、どういった齟齬や葛藤が生じるのかといった問題にも関心を寄せています。

沼田 愛（ぬまた・あい）
 <東北学院大学大学院生 民俗学>
 ひとつとが生活の中で獲得した知識や経験が、社会やメンバーの変化とともに、どのように伝承されるのかについて、民俗芸能を事例に調査・研究を進めています。これを通して、民俗を捉え直す方法を模索しています。

小谷 竜介（こたに・りゅうすけ）
 <宮城県教育委員会、技術主査 日本民俗学>
 東北歴史博物館学芸員として宮城県教育委員会に採用され、現職に異動後は民俗文化財、美術工芸品を主に担当しています。これまでは宮城県の沿岸漁村の地域文化を対象に研究をしてきました。震災では、動産の文化財を対象にした文化財レスキュー事業に関わる一方で、これまでのフィールドが失われたこともあり、失われた民俗と震災後のありかたに関心をもち津波被災地を歩いております。

政岡 伸洋（まさおか・のぶひろ）
 <東北学院大学文学部歴史学科教授 民俗学>
 民俗を伝承する背景には何があるのかという、「民俗の実践とその意義」に関心があります。震災以降は、被災地のさまざまな動きについて、災害という点だけでなく、以前の暮らしの文脈との関連にも注目し、調査検討しています。

菊池 健策（きくち・けんさく）
 <文化庁文化財部伝統文化課主任文化財調査官・文化財保護調整官、日本民俗学 祭礼・民間信仰>
 日本各地の祭りを通してそこにあらわれる人々の関係性や地域性を見ようと しています。また、祭りや芸能が地域社会や人々の生活とどう関わり、どのように機能するかに着目しながら、地域社会で伝承されてきた祭りや民俗芸能の保護に努めたいと考えています。

齋藤 三郎（さいとう・さぶろう）
 <山元町教育委員会 生涯学習課 課長（震災時：山元町社会福祉協議会事務局長派遣）>
 30年余、住民に最も身近な自治体、町役場に勤務しています。震災時、派遣先の社会福祉協議会にて災害ボランティアセンターの立ち上げに関わりました。遠くから来町し災害復旧に従事する多くのボランティアに接し、日本人の底力を体感しました。震災直後の混乱期から現在に至るまで、優先度の選択に苦慮しています。

沼倉 雅毅（ぬまくら・まさき）
 十八成・白山神社笛担当。15歳から十八成地区の例大祭である白山神社奉納祭に笛の担当として参加しています。地区の高齢化と自分の後ろに次世代の担い手達が続かないのを思い、区の役員と相談して2010年に「十八成祭り保存会」をつくり囃子や太鼓、獅子舞などを6人の子供たちに教えています。2011年には50年に断絶していた正月の獅子振りを役員と子供達の力を借りて復活させました。

東北大学東北アジア研究センターシンポジウム

民俗芸能と祭礼からみた地域復興

東日本大震災にともなう被災した無形の民俗文化財調査から

主催：東北大学東北アジア研究センター

共催：東北学院大学、東北大学大学院文学研究科

後援：読売新聞社、河北新報社

